玉川教会たより

NO,460
8月24日

大切なものはわずかです

「大切なものはわずかです…ローラ・インガルス29の知恵」著者：ローラ・インガルス・ワイルダー　編者：スティーブン・ハインズ：いのちのことば社

▼私の居間にはカーテンをかけていない大きな窓が三枚あり、私はそれを「私の絵」と呼んでいます。季節の移り変わりとともに変わっていくこの絵には、鳥や人なつっこいリスも登場しては、また去っていきます。この三枚の絵にかなうような風景画を、私は見たことがありません。……第5章「あまりにも美しい世界」より。

▼この営業こそ、「大切なものはわずかです」の全体像を写していると思う。額縁で風景を切り取るという描写があるが、切り取られて、結果、動きを失い、命を失った世界ではなく、生きて感づく世界が、この窓の外には広がっている。だから所謂借景ではない。この窓は、外の世界と家の中とを隔てるためのものではなく、両者をつなぐものなのだ。

▼その景色は、誰もが感を飲むような絶景ではない。むしろ、ありふれた、だからこそ、人をほっとさせる、郷愁そそられる世界だ。同様に、「ローラ・インガルス29の知恵」は、知識や哲学を披瀝して、人を唸らせることはないだろう、絶賛で迎えられることもないかも知れない。しかし、深い共感を呼び起こすのだ。読者は、忘れかけていたものを再発見し、懐かしさに涙誘われる。

▼身の回りに起こる様々な出来事、そして多様な登場人物、どれをも、誰をも、その人の顔をも思い浮かべることができるようだ。表現を飾らなければ、日常的な出来事であり、平凡な登場人物たちだ。この出来事、登場人物に基づいて著者が述べる批評や解説も、突った説や人を煙に巻く人生哲学を披露することもない。しかし、じっと耳を傾ける気持ちを起こさせる。

▼著者の営業の多くは、彼女の母に由来し、祖母に由来する。炉端で、病床の傍らで語り継がれたものだ。この営業この知恵は、更に出典を遡るならば、聖書に辿り着く。聖書の教えが、実生活の中で体験され、確信を得、そして、受け継がれて来た。それが「ローラ・インガルス29の知恵」なのだ。

▼この知恵の核心部分は、無駄、不必要なもの、むしろ邪魔を省くことにあるようだ。

家の中から余計なものを取り除くにあたって、真っ先に取り除くべきものは、このような心配や焦る気持ちではないでしょうか。（中略）急ぐことと焦ることとは全く別のことです。たとえば焦ることなく落ち着いた心で、手早く急いで仕事をするということも可能なのです。冷静で集中していれば、案早く動いていても失敗することはないでしょう。……第9章「引き算のスキル」より

▼あらゆる争い、無秩序の原因を突き詰めて探っていくなら、その根は人々の心の中にあります。一人ひとりの自己中心、少しでも他人よりも得をしたいという思いがその原因であり、こうした欲望が自分の周りの人々に影響を及ぼしていき、最終的には国を動かしていくのです。……第22章「地の上に平和がありますように」より

▼聖書の信仰を振り回すのではなく、信仰に振り回されるのでもなく、聖書の教えを押しつけるのではなく、押しつけられるのでもなく、信仰と御言葉の中に生き、生かされている姿は、本当に美しい。その美しさは、彼女の家の、三枚の窓、三枚の絵と同じものだ。感を飲むような美しさではないかも知れない。しかし、決して見飽きることのない美しさだ。

▼常に手元に置いておきたい本がある。にも拘わらず、常に手元にはない。何故なら、人に勧め貸したりあげたりしてしまうからだ。この本を読んで二日後、書店でもう一冊を買い求め、その日の内に、病床に届けた。

194－0041　町田市玉川学園4の5の32　℡. 042－732－9321